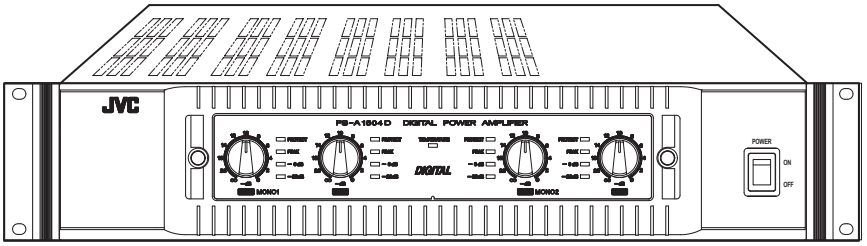
JVC

お客様へ:
本書には、設置に関する記載がされておりますが、設置は必ず専門の業者にお任せください。

デジタルパワーアンプ

型名 **PS-A1504D**

取扱説明書 (B)



お買い上げありがとうございます。
ご使用の前にこの「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をお読みのうえ、正しくお使いください。
お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。
製造番号は品質管理上重要なものです。お買い上げの際は本機に製造番号が正しく記されているか、またその製造番号と保証書に記載されている製造番号が一致しているかお確かめください。

B5A-1884-00

特長

省電力設計

PS-A1504D は D 級増幅方式で電力増幅を行い、高効率スイッチング電源を採用したパワーアンプです。

定格出力（8Ω）時、80%以上の高効率、省電力設計を実現しました。

省スペース・ハイパワーの実現

総出力 600 W のハイパワーながら、EIA 2U、
質量 7.3 kg と省スペースかつ軽量化を実現しました。

ファンレス構造

D 級増幅回路とスイッチング電源の採用によって、ハイパワーながら自然空冷を実現し、ファンを排除しました。

ファンのメンテナンスが必要なく、騒音を発しません。

業務用として各種保護回路を搭載

温度保護回路	：本機の内部温度を監視し、温度異常警告表示や出力を遮断。温度上昇によるトラブルを防ぎます。
過電流保護回路	：過負荷･出力短絡などによるトラブルを防ぎます。
DC 電圧出力保護回路	：アンプ出力からの DC 電圧を検出し、出力を遮断。スピーカーの破壊を防ぎます。
ミューティング回路	：電源スイッチ ON-OFF 時のポップノイズを防ぎます。

3 ポイントのシグナルインジケーターを装備

動作状態が一目で監視できる SIGNAL（2 ポイント）と PEAK インジケーターを採用しています。

ラックマウント・棚置き対応

EIA ラックマウント、棚置きの両方に対応しています。

着脱可能な EIA マウント金具を装備しています。

内部温度の上昇を知らせる警告表示を装備

本機内部の温度が、異常な高温になっていることを警告する温度警告表示ランプを装備しています。

もくじ

はじめに

特長 2
もくじ 2
安全上のご注意 3
正しくお使いいただくためのご注意 3
各部の名称とはたらき 5
　フロントパネル 5
　リアパネル 6

接続 / 設置（設置業者さま向け）

接続のしかた 7
　接続ケーブルについて 7
　入力の並列接続について 7
　各種接続について 8
　スピーカー接続について 8
　スピーカー端子カバーの取り扱いについて 9
　ハイインピーダンススピーカーを使用する場合 10
ラックへの組み込みについて 11
　設置上のご注意 11
　ラックマウント補助金具を使用して取り付ける 12
　プロテクトカバーの取り付けについて 12
　フットの取り付けについて 12
ブロックダイヤグラム 13

その他

困ったときは 14
保証とアフターサービス 15
仕様 15

この取扱説明書の見かた

■ 本文中の記号の見かた

ご注意　：操作上の注意が書かれています。

メモ　：機能や使用上の制限など、参考になる内容が書かれています。

☞　：参考ページや参照項目を示しています。

■ 本書記載内容について

- 本書の著作権は弊社に帰属します。本書の一部、または全部を弊社に無断で転載、複製などを行うことは禁じられています。
- 本書に記載されている他社製品名は、一般に各社の商標、または登録商標です。本書では ™、®、©などのマークは省略してあります。
- 本書に記載されたデザイン、仕様、その他の内容については、改善のため予告なく変更することがあります。

安全上のご注意

別冊の「安全上のご注意」に追加した注意文です。ご使用の前によくお読みのうえ、正しくお使いください。絵表示の説明については、別冊の「安全上のご注意」を参照してください。

⚠警告

電源コードの上に重い物をのせたり、電源コードの継ぎ足しは火災や感電の原因となりますので、おやめください。	
セット内部に触れることは危険なうえ故障の原因となります。内部の点検・調整は販売店へお任せください。	
この機器には内部の温度上昇を防ぐために、セットの上面、底面、側面に通風孔があけてありますのでふさがないでください。内部に熱がこもり火災の原因になることがあります。 また、ラックに組み込む場合は、通風のため本機 1 台に対して 1 U 以上のブランクスペースをとるようにしてください。	
本機の上に火のついたものを置かない。火のついたローソクなどを置くと、火災の原因となります。	
通風孔からクリップなどの異物を挿入したり、水などの液体をこぼさないでください。内部回路がショートし火災の原因になることがあります。	
本機は日本国内専用です。 必ず商用電源 AC100V 50Hz/60Hz で使用してください。	
本機の設置は、技術を必要とします。 設置工事は必ず、お買い上げ販売店に依頼してください。	

⚠注意

電源プラグが容易に抜き差しできる空間を設けてください。電源スイッチを切っただけでは、機器は電源から完全に遮断されません。完全に遮断するには、電源プラグを抜いてください。 機器はコンセントに容易に手が届く位置に設置し、異常が起きた場合すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。	
製品に悪い影響を与えますので、ほこりや振動の多い所には置かないでください。	
本機を設置するときは下記のように設置スペースを確保してください。（電気用品安全法による） 上面：5 cm 以上、側面：5 cm 以上、背面：10 cm 以上 ■正面図 ■背面図	
設置後は、必ずポリ袋を回収してください。	

正しくお使いいただくためのご注意

本機は、非常用放送設備としては使用できません。

保管および使用場所

● 次のような場所に置かない

誤動作や故障の原因となります。

- 許容動作温度（0 ℃ ～ 40 ℃）範囲外の暑いところや寒いところ
- 許容動作湿度（10 %RH ～ 90 %RH）範囲外の湿気の多いところ
- 変圧器やモーターなど強い磁気を発生するところ
- トランシーバーや携帯電話など電波を発生する機器の近く
- ほこりや砂の多いところ
- 振動の激しいところ
- 窓ぎわなど水滴の発生しやすいところ
- 厨房など蒸気や油分の多いところ
- 放射線や X 線、および腐食性ガスの発生するところ

<次のページへつづく>

正しくお使いいただくためのご注意（つづき）

取り扱いについて

- 本機の放熱が不十分になると故障の原因となります。本機周辺の通風を妨げないようにしてください。
- 本機の上に水の入ったもの（花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など）を置かない。

  機器の内部に水が入ると、火災や感電の原因となります。
- 内部に物を入れない。

  通風孔などから、金属類や燃えやすいものなどを入れると火災や感電の原因となります。
- オプション機器の組み込みや接続には、技術を必要とする場合があります。

  オプション機器の組み込みや接続を誤ると、感電や火災の原因となることがあります。必ずお買い上げ販売店にご依頼ください。
- 電力線と入力信号線はできるだけ離して接続する。

  電源コードやスピーカーケーブルなどの電力線とマイクケーブルや、赤外線ワイヤレスシステムの受光センサー用同軸ケーブルなどの入力信号線を近づけると、機器の動作が不安定になり、動作不良の原因となります。
- 過大入力による連続使用は、破損の原因となります。
  頻繁に PEAK ランプが点灯する状態で使用しないでください。
- 運用状態によって、本体ケースが熱くなることがあります。運用中や電源を切った直後はさわらないでください。
- 横倒しや逆さまに設置しないでください。安定した水平な場所に置いて使用してください。

移動について

- 移動するときは接続コード類をはずす。

  移動するときは、電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
- 本機を箱から出すときや、移動の際に持ち運ぶときは、誤って落とさないよう、十分に注意して取り扱ってください。

お手入れについて

- 本機は柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジンでふくと、表面がとけたり、くもったりします。汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤を布につけてふき、あとでからぶきしてください。
- 殺虫剤など揮発性の薬品をかけたり、ゴムやビニール製品などを長時間接触させたままにしないでください。
  プラスチックの中に含まれる可塑剤（かそざい）の働きによって変質したり、塗装がはげるなどの原因となります。

省エネについて

- 長時間使用しないときは、安全および節電のため、電源プラグをコンセントから抜いてください。

その他

- 落雷などにより電源電圧が変動した場合、システム保護のため電源電圧が安定するまで操作できないことがあります。
- 本機および本機に接続したケーブルを強い電波や磁気の発生するところ（例、ラジオ、テレビ、変圧器、モニターなどの近く）で使用すると、本機の動作に影響が出ることがあります。

ミューティング動作について

- 電源を入れてから 3 秒～ 5 秒間は音が出ませんが、これはミューティング動作のためで、故障ではありません。

電源の ON（入）、OFF（切）について

- すべての結線が終了してから本機の電源を入れてください。接続コードの抜き差しは電源を切ってから行なってください。
- 周辺機器と組み合わせて使用する場合、本機の電源は最後に入れてください。また、電源を切るときは本機の電源を最初に切ってください。ノイズなどによるスピーカーの破損を防止できます。

設置場所について

- 本機の上に音声信号レベルの小さい機器を設置すると、雑音が出ることがあります。CD プレーヤー、テープデッキ、グラフィックイコライザーなどはできるだけ離して設置してください。

配線について

- マイクケーブルやライン信号ケーブル、赤外線ワイヤレスシステムの受光センサー用同軸ケーブルを電源コードやスピーカーケーブルと一緒に配線しないでください。受信障害やノイズの原因となります。10cm 以上は離して配線してください。

バランスケーブルの使用について

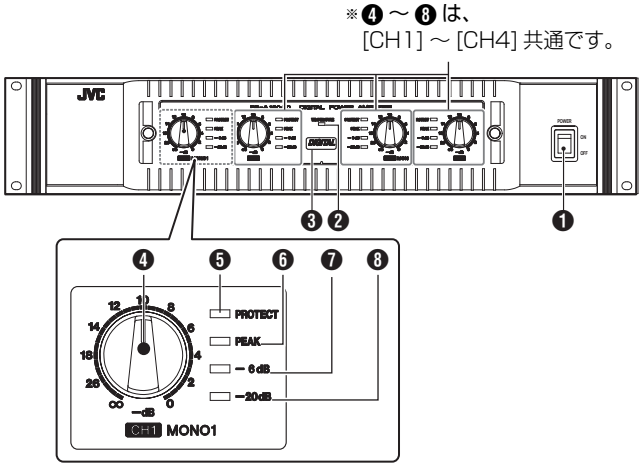
- アンバランス（不平衡）タイプのケーブルを 5 m 以上延長すると、電源からの誘導雑音（ブーンという音）や調光ノイズなどの影響を受けやすくなります。ケーブルを延長する場合は、バランス（平衡）タイプのケーブルを使用してください。

接続について

- スピーカー出力端子への接続は、電源を切ってから行なってください。
- 過負荷は故障の原因となります。
  必ず、指定のインピーダンス（4 チャンネル時：4Ω ～ 16Ω、2 チャンネル時（モノラル動作時）：8Ω ～ 16Ω）になるようにシステムを設計してください。

各部の名称とはたらき

フロントパネル



❶ [POWER] 電源スイッチ

電源 ON/OFF スイッチです。
電源スイッチを ON 側にすると、[DIGITAL] 電源表示ランプ ❸、[TEMPERATURE] 温度警告表示ランプ (赤)❷、[PROTECT] プロテクト表示ランプ (赤)❺ が点灯します。
3 秒～ 5 秒後に [TEMPERATURE] 温度警告表示ランプ (赤)❷、[PROTECT] プロテクト表示ランプ (赤)❺ が消灯し、運用可能な状態になります。
電源を切るときは“OFF”側にします。

❷ [TEMPERATURE] 温度警告表示ランプ（赤）

本機内部が高温になると点灯し、出力信号レベルが制限されます。過大な信号が連続して入力する場合、本機内部が高温になり点灯します。点灯したときは、入力アッテネーター ❹ を左にまわし出力を下げてください。内部の温度がさがると消灯します。

- 温度警告表示ランプ点灯後、継続して運用すると保護回路が作動し、出力が遮断されます。([PROTECT] 表示ランプ (赤) ❺ が点灯）保護回路動作後は安全のため自動復帰しません。

ご注意：

- 温度警告表示ランプが点灯した状態で継続使用しないでください。本機の寿命が低下したり、火災・故障の原因となることがあります。
- すべてのチャンネルで温度保護回路が動作した場合、安全のため電源が OFF になり、すべてのランプが消灯します。(☞ 14 ページ)

❸ [DIGITAL] 電源表示ランプ（青）

電源を入れると、約 1 秒で “DIGITAL” の文字が青色に点灯します。

❹ 入力アッテネーター

音量を設定するときに使用します。[PEAK] シグナルインジケーター（赤)❻ が点灯しないように、音量を設定し、使用してください。
クリックポジション付きです。

ご注意：

- スピーカーを接続しないチャンネルは、入力アッテネーターを必ず “ ∞ ” の位置（絞りきり）に設定してください。
- モノラル動作させる場合 (☞ 8 ページ)
  CH1 と CH2 をモノラル動作させるときは CH1/MONO1 側を使用してください。（CH2 の入力アッテネーターは機能しません。）
  CH3 と CH4 をモノラル動作させるときは CH3/MONO2 側を使用してください。（CH4 の入力アッテネーターは機能しません。）

❺ [PROTECT] プロテクト表示ランプ（赤)

保護回路が動作して出力が遮断された場合に点灯します。
（ミューティング動作）電源を入れると点灯、3 秒～ 5 秒後に消灯し動作状態に入ります。

- DC 電圧出力保護回路が動作した場合、安全のため自動復帰しません。
- 連続過大出力、過負荷などの異常使用状態で温度保護回路が動作した場合、安全のため自動復帰しません。
- すべてのチャンネルで温度保護回路が動作した場合、安全のため電源が OFF になり、すべてのランプが消灯します。(☞ 14 ページ)
- 過電流保護回路が動作した場合、自動復帰しません。異常を取り除いてから、再度電源を投入してください。
- 消灯しない場合は、何らかの異常が考えられます。電源を切って使用を中止し、お買い上げ販売店または最寄りのご相談窓口にご相談ください。

ご注意：

- 各保護回路は、本機に異常が発生した場合や異常な運用状態の場合に動作し、本機を保護するものです。保護回路が動作し続けている異常状態での継続使用は、機器が破損する恐れがあるのでおやめください。

❻ [PEAK] シグナルインジケーター（赤)

出力が定格出力付近になると赤色に点灯します。インジケーターが点灯しないよう、音量を下げて使用してください。

❼ [－ 6 dB] シグナルインジケーター（緑)

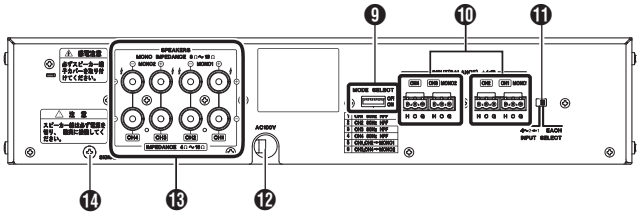
出力信号レベルが定格出力の－ 6 dB 以上になると緑色に点灯します。

❽ [－ 20dB] シグナルインジケーター（緑)

出力信号レベルが定格出力の－ 20dB 以上になると緑色に点灯します。

各部の名称とはたらき（つづき）

リアパネル



❾ [MODE SELECT] 設定スイッチ

- 設定スイッチは 1 番目～ 6 番目でありますが、下記のように機能が異なります。
  - ・1 番目～ 4 番目 80Hz HPF
    ハイインピーダンストランスユニット (☞ 10 ページ) を使用する場合、“ON”側に設定します。
  - ・5 番目 CH1, CH2 → MONO1
    6 番目 CH3, CH4 → MONO2
    本機を 2 チャンネルアンプとしてご使用になる場合などに設定スイッチを切り換えます。
    CH1、CH2 をモノラル動作させる場合（MONO1）、5 番目のスイッチを“ON”側に設定します。
    CH3、CH4 をモノラル動作させる場合（MONO2）、6 番目のスイッチを“ON”側に設定します。
    (☞ 8 ページ)

ご注意 :

- 設定スイッチの切り換えは電源を切ってから行なってください。ノイズなどによって、スピーカーが破損する原因となることがあります。

❿ [INPUT(BALANCE)+4dB], [CH1/MONO1, CH2, CH3/MONO2, CH4]
入力端子（+4 dB / 20 kΩ、平衡（コネクター端子台、0dB=0.775Vrms）

- 音声信号の入力端子です。付属のコネクター端子台を使用して接続します。(☞ 7 ページ)
- CH1 と CH2 をモノラル動作（MONO1) させる場合、CH1/MONO1 側に入力信号を接続してください。
  CH2 側に接続しても音声は出力されません。
  CH3 と CH4 をモノラル動作（MONO2) させる場合、CH3/MONO2 側に入力信号を接続してください。
  CH4 側に接続しても音声は出力されません。
  (☞ 8 ページ)

ご注意 :

- 接続は電源を切ってから行なってください。ノイズなどによって、スピーカーが破損する原因となることがあります。

⓫ [INPUT SELECT], [4 ～ 2 ← 1, EACH]
入力チャンネル切り換えスイッチ

入力信号を各チャンネルに出力するときは “EACH” に切り換え、CH1 の入力信号をすべてのチャンネルに出力するときは “4 ～ 2 ← 1” に切り換えてください。

ご注意 :

- スイッチの設定は電源を切ってから行なってください。ノイズなどによって、スピーカーが破損する原因となることがあります。

⓬ 電源コード

必ず商用電源 AC100 V に接続してください。

⓭ [SPEAKERS], [CH1 ～ CH4], [MONO1, MONO2] スピーカー出力端子

- 音声信号の出力端子です。スピーカーまたはハイインピーダンストランスユニット (☞ 10 ページ) と接続します。
- 設定スイッチ ❾ の 5 番目と 6 番目の ON/OFF 設定により、接続できるスピーカーのインピーダンスは下表のとおりです。

設定スイッチ ❾		スピーカー端子	インピーダンス
5 番目のスイッチ	OFF	CH1⊕ と ⊖ CH2⊕ と ⊖	4 Ω ～ 16 Ω
	ON	MONO1⊕ と ⊖	8 Ω ～ 16 Ω
6 番目のスイッチ	OFF	CH3⊕ と ⊖ CH4⊕ と ⊖	4 Ω ～ 16 Ω
	ON	MONO2⊕ と ⊖	8 Ω ～ 16 Ω

- 接続時、スピーカー端子カバーをはずします。接続完了後、感電防止のため、スピーカー端子カバーを必ず取り付けてください。(☞ 9 ページ)

ご注意 :

- 出力回路の並列接続はできません。
- 上記の表中のインピーダンス以外のスピーカーを接続しないでください。火災・故障の原因となることがあります。また、本来の性能が得られません。
- スピーカー出力端子の ⊖ 側はアース電位ではありません。アースには接続しないでください。
- ⊖ 同士を接続したり、⊖ 端子を他のチャンネルと共用しないでください。本来の性能が得られません。

⓮ [SIGNAL GND] シグナル接地端子

システム配線時に、機器どうしのシャーシアースを取る場合に使用します。

ご注意 :

- 安全アースではありません。

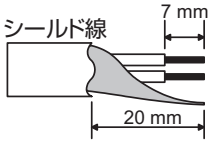
接続のしかた

接続ケーブルについて

■ コネクター端子台の配線

本機の入力端子への接続は、下記を参照し、添付のコネクター端子台をケーブルに取り付けて使用してください。

1 ケーブル（シールド線）を下図のように処理する。



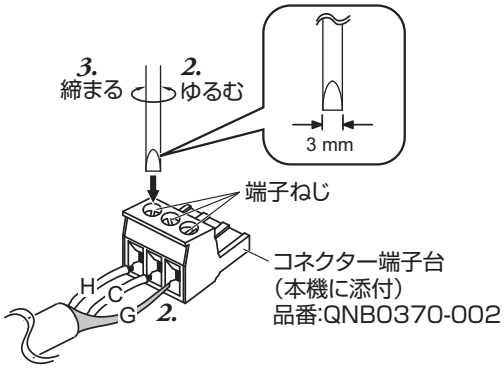
2 マイナスドライバーを使って端子ねじをゆるめ、ケーブルを差し込む。

メモ：

- マイナスドライバーは、ブレード幅が 3 mm 程度のものを使用してください。
- ケーブルは 2 芯シールドタイプのマイクケーブルを使用してください。

3 端子ねじを締め付け、ケーブルが抜けないことを確認する。

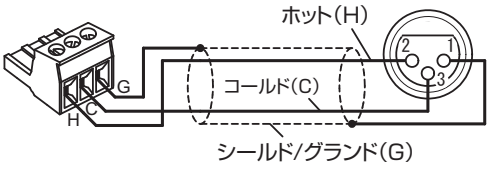
4 本機の入力端子に接続する。



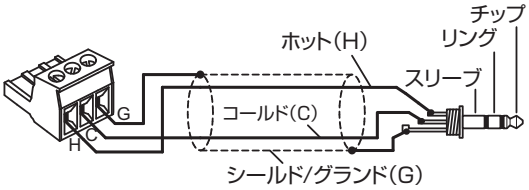
■ 接続ケーブルの作製方法

接続ケーブルを作製する場合は、下図を参考にしてください。

平衡タイプ：XLR タイプコネクター（XLR-3-11 相当 ）



平衡タイプ：φ6.3 複式フォンプラグ

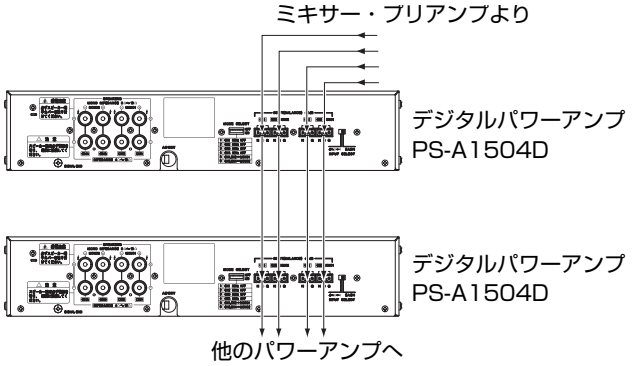


入力の並列接続について

接続可能台数は最大 9 台です。
(ミキサー出力インピーダンス 2 kΩ 時)

ご注意：

- [INPUT SELECT　4 ～ 2 ← 1/EACH] スイッチを “4 ～ 2 ← 1” に設定した場合も、接続チャンネルの合計は、9 台以内で使用してください。
- “4 ～ 2 ← 1” に設定した場合、入力は “CH1/MONO1” のみ有効です。接続は “CH1/MONO1” を使用してください。
- 本機の入力インピーダンスは 20 kΩ です。並列接続時はミキサーの出力インピーダンス以下にならないようご注意ください。

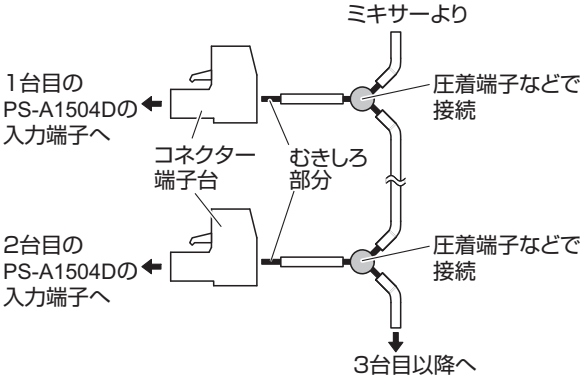


■ ケーブルの作製方法

並列接続をするためのケーブルを作製する場合は、下図を参考にしてください。

ご注意：

- コネクター端子台の差し込み部分へ接続するワイヤーは 1 本のみとしてください。
- コネクター端子台へ接続するワイヤーのむきしろ部分には、はんだめっきをしないでください。
- 圧着端子などで接続した部分は、絶縁テープなどで絶縁処理してください。



■ 絶縁スリーブ付棒端子を使用する

2 本の電線を同時に圧着することができる「絶縁スリーブ付棒端子」を使用すると、上図の方法の様に接続部分を絶縁する必要がなくなります。並列接続のワイヤーを作製する場合は、「絶縁スリーブ付棒端子」を推奨します。

推奨棒端子品番： AI TWIN 2 x 1-8 RD
AI TWIN 2 x 0,75-8 GY
（フェニックス・コンタクト製）

※ 適応電線断面積範囲を確認し、正しい端子を選んでください。

圧着工具品番： CRIMPFOX 6
（フェニックス・コンタクト製）

接続のしかた（つづき）

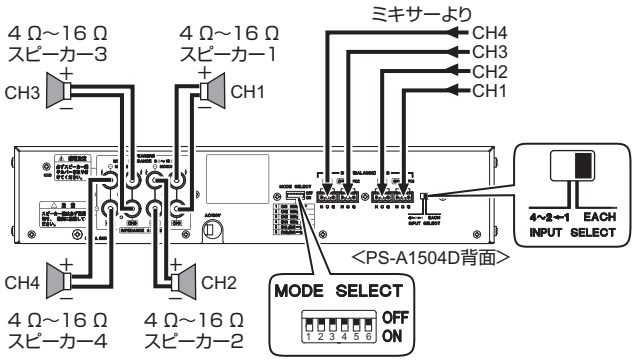
各種接続について

本機の接続については、下表を参考にしてください。

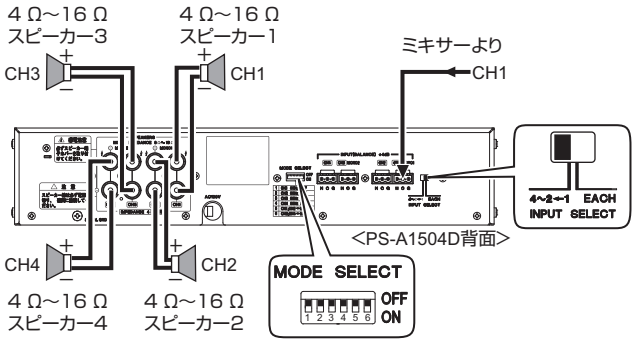
組み合わせ	リアパネルのスイッチ設定			INPUT（入力端子の接続）				SPEAKERS（スピーカー端子の接続）			
	INPUT SELECT	MODE SELECT No.5	MODE SELECT No.6	CH1 (MONO1)	CH2	CH3 (MONO2)	CH4	CH1	CH2	CH3	CH4
4 入力 / 4 出力	EACH	OFF	OFF	入力 A	入力 B	入力 C	入力 D	出力 A	出力 B	出力 C	出力 D
1 入力 / 4 出力	4 ～ 2 ← 1	OFF	OFF	入力 A	—	—	—	出力 A	出力 A	出力 A	出力 A
1 入力 / 2 出力	4 ～ 2 ← 1	ON	ON	入力 A	—	—	—	出力 A		出力 A	
2 入力 / 2 出力	EACH	ON	ON	入力 A	—	入力 B	—	出力 A		出力 B	
3 入力 / 3 出力（1）	EACH	OFF	ON	入力 A	入力 B	入力 C	—	出力 A	出力 B	出力 C	
3 入力 / 3 出力（2）	EACH	ON	OFF	入力 A	—	入力 B	入力 C	出力 A		出力 B	出力 C
1 入力 / 3 出力（1）	4 ～ 2 ← 1	OFF	ON	入力 A	—	—	—	出力 A	出力 A	出力 A	
1 入力 / 3 出力（2）	4 ～ 2 ← 1	ON	OFF	入力 A	—	—	—	出力 A		出力 A	出力 A

スピーカー接続について

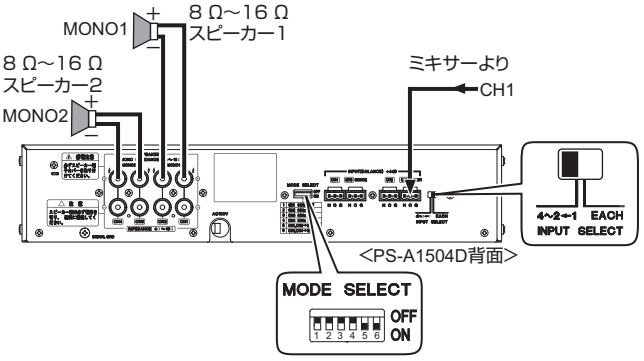
■4 入力、4 出力の場合



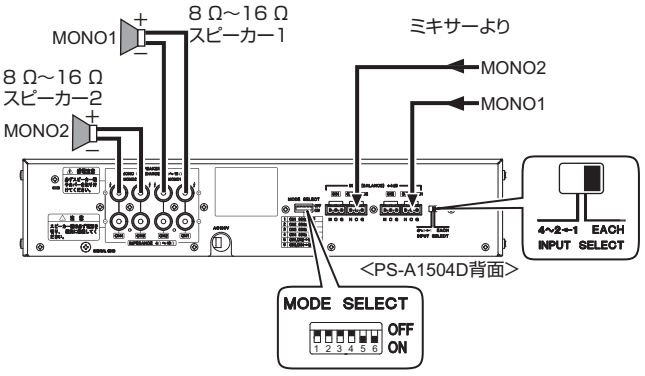
■1 入力、4 出力の場合



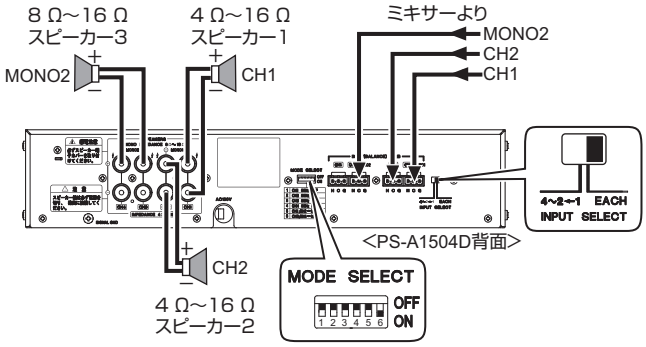
■1 入力、2 出力の場合



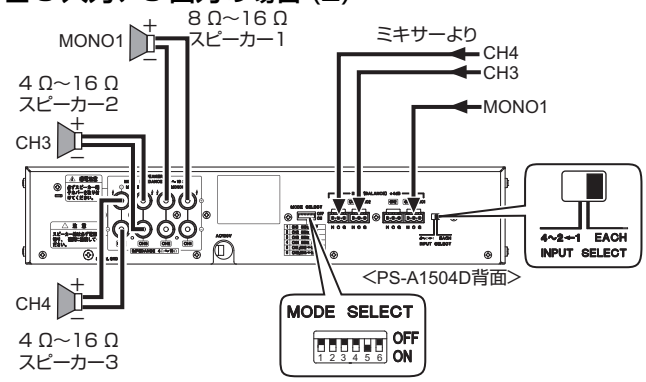
■2 入力、2 出力の場合



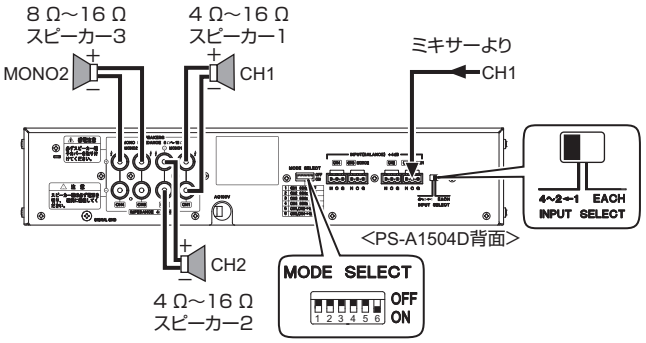
■3 入力、3 出力の場合 (1)



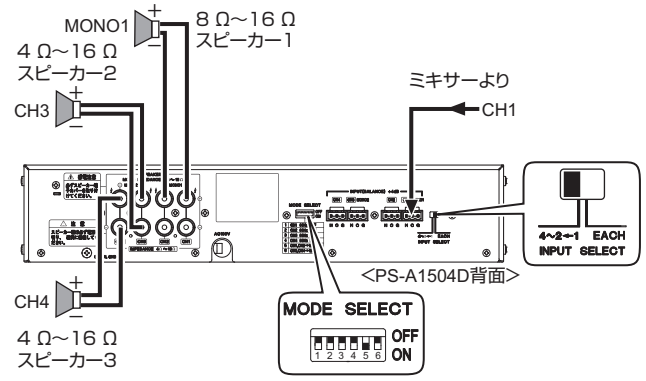
■3 入力、3 出力の場合 (2)



■1 入力、3 出力の場合 (1)

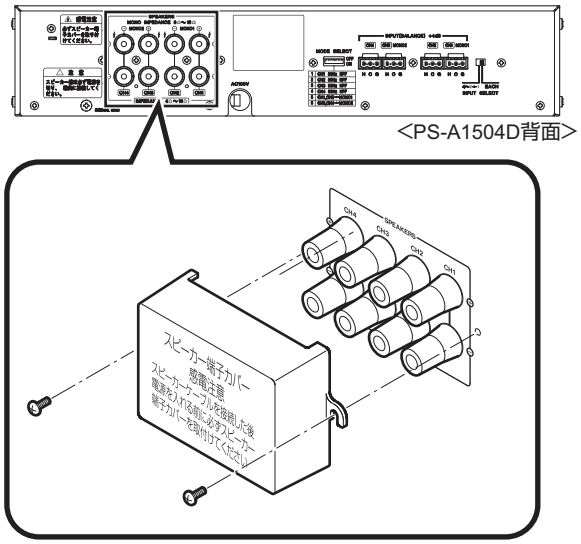


■1 入力、3 出力の場合 (2)



スピーカー端子カバーの取り扱いについて

スピーカーケーブルの接続時、スピーカー端子カバーをはずします。



ご注意：

- スピーカー出力端子への接続は、電源を切ってから行なってください。
- 感電防止のため、必ずスピーカー端子カバーをつけて使用してください。
- バナナプラグを使用すると、スピーカー端子カバーが取り付けられなくなります。感電防止のため、バナナプラグは使用しないでください。
- スピーカー出力端子のゆるみにご注意ください。
- スピーカー出力端子を必要以上にゆるめないでください。端子がはずれて紛失する恐れがあります。
- スピーカーは、必ずスピーカー出力端子の ⊕ 端子と ⊖ 端子間で接続してください。故障の原因となります。
- ケーブル同士のショートにご注意ください。

接続のしかた（つづき）

ハイインピーダンススピーカーを使用する場合

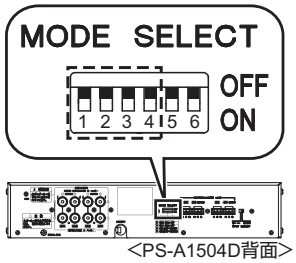
ハイインピーダンスピーカーを使用する場合、本機にハイインピーダンストランスユニット（PS-TU20：別売）を接続し、接続するチャンネルの HPF（ハイパスフィルタ）を “ON” に設定してください。

ご注意：

- HPF（ハイパスフィルタ）の設定およびハイインピーダンストランスユニットの接続は、電源を切った状態で行なってください。

■ HPF（ハイパスフィルタ）の設定

設置スイッチの該当するチャンネルを “ON” に設定します。



<PS-A1504D背面>

スイッチ番号	スイッチ名称	説明
1	CH1 HPF スイッチ	CH1 にハイインピーダンストランスユニットを接続する場合、“ON” にします。
2	CH2 HPF スイッチ	CH2 にハイインピーダンストランスユニットを接続する場合、“ON” にします。
3	CH3 HPF スイッチ	CH3 にハイインピーダンストランスユニットを接続する場合、“ON” にします。
4	CH4 HPF スイッチ	CH4 にハイインピーダンストランスユニットを接続する場合、“ON” にします。

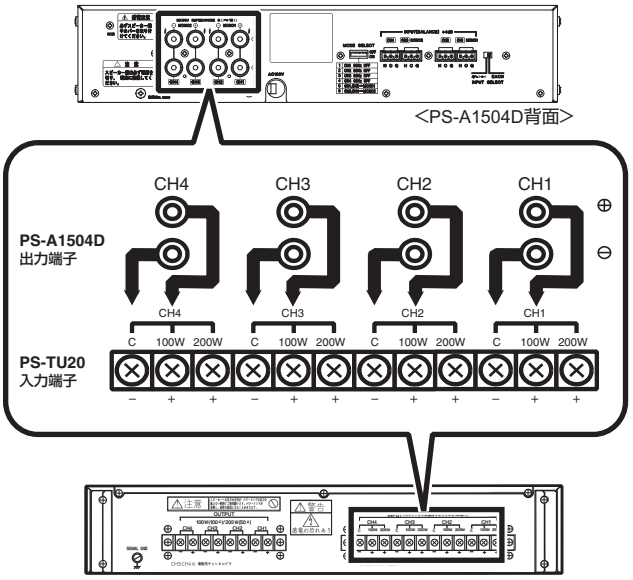
ご注意：

- 本機にハイインピーダンストランスユニットを接続して使用する場合は、必ず該当チャンネルのスイッチを “ON” にしてください。設定を行わないと過負荷状態になり、故障の原因となります。
  詳しくは、弊社営業担当または最寄りのご相談窓口にご相談ください。
- ハイインピーダンストランスユニットに接続するときは、5 番目と 6 番目のスイッチは絶対に操作しないでください。モノラル動作状態で、ハイインピーダンストランスユニットに接続することはできません。

■ ハイインピーダンストランスユニット（PS-TU20：別売）の接続

本機をハイインピーダンストランスユニットに接続する場合、下記のように接続します。

- 本機のスピーカー出力端子 ⊕ 端子 ➡PS-TU20 の [100W] 端子
- 本機のスピーカー出力端子 ⊖ 端子 ➡PS-TU20 の [C] 端子



<PS-TU20背面>

- PS-TU20 は工場出荷時に、2CH 分のトランスが組み込まれています。3CH 以上で使用する場合、ハイインピーダンストランス（PS-T200：別売）を必要数 PS-TU20 に組み込む必要があります。

ご注意：

- スピーカー出力端子への接続は、電源を切ってから行なってください。本機のスピーカー出力端子は無信号時でも電圧が出力されています。
- PS-TU20 の出力が定格（100 Vrms）を超えないよう、本機の入力アッテネーターで出力レベルを調節してください。
- 本機の [PEAK] インジケーターが点灯しない範囲で使用してください。

ラックへの組み込みについて

設置上のご注意

製品を安全に正しくお使いいただき、人への危害や財産の損害を未然に防止するために本文をお読みいただき、次の条件で設置をお願いします。

ご注意：

- 本機の放熱を妨げると故障の原因となることがあります。
- 重ね置きは避けてください。
- ラックに組み込む場合、通風のため本機１台に対して1U（約 44mm）以上のベンチレーションスペースを上下に取ってください。
- 密閉したラックでは使用しないでください。

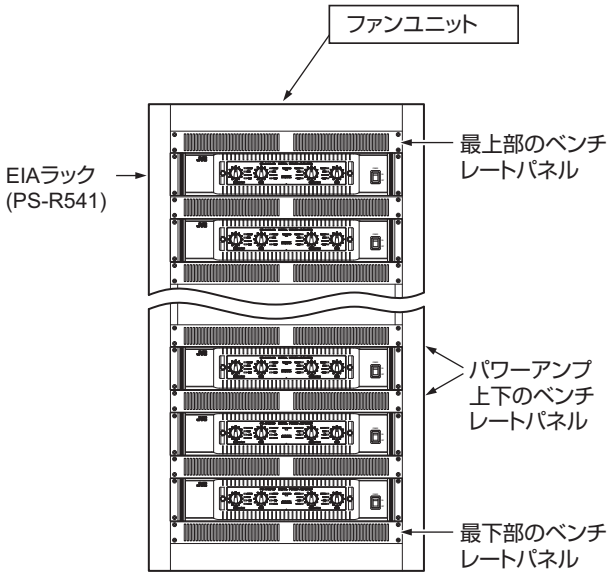
メモ：

- 本機には、内部温度上昇を防ぐために、セットの上面、底面、側面に通風孔があけてあります。通風孔をふさがないでください。

  内部に熱がこもり故障の原因になることがあります。

■ ラックで使用する場合

- ラックに組み込む場合、通風のため本機１台に対して１U（約 44mm）以上のベンチレーションスペースを上下に取ってください。
- ３台以上で使用する場合、ファンユニットを取り付けてください。
- EIA ラック（PS-R541、PA-R641B、PA-R631B）などに組み込む場合、放熱効果をよくするため、ラックの最上部と最下部にもベンチレートパネルを取り付けてください。



■ 棚置きで使用する場合

- 棚置きで使用する場合、必ずフットを取り付け (☞ 12 ページ)、側面と上面 5 cm 以上、背面 10 cm 以上の隙間を取り、放熱のために空気の流通をよくするようにしてください。
  フットを使用しないと、事故や故障の原因となります。

ご注意：

- EIA ラック（PS-R541、PA-R641B、PA-R631B）を使用される場合、充分な放熱効果を得るためにファンユニット（PS-RU40 または PS-R413B）をラック上面内側に必ず取り付けてください。
  取り付け台数に関しては、下記［参考］をご覧ください。
  取付方法の詳細につきましては、PS-RU40 または PS-R413B の [取扱説明書] をご覧ください。
- 本機をパワーコントローラー (PS-P32-B/H) に接続する場合、AC アウトレット CN-P1 および CN-P2、CN-P3、CN-P4 へそれぞれ１台のみ、合計 2 台まで接続できます。
- システムラック (PS-R30) に本機を組み込む場合、パワーコントローラー (PS-P32-B/H) には、本機を含め各ユニットの消費電力の合計が 800W を越えないように接続してください。この場合、パワーコントローラー (PS-P32-B/H)1 台に対して、本機を 1 台接続できます。

［参考］ファンユニット取り付け台数のめやす

- 本機４台までは、ファンユニット（PS-R413B）を１台。
- 本機 5 台から 8 台までは、ファンユニット（PS-R413B）を 2 台。
- 本機９台に対して、ファンユニット（PS-RU40）を１台。

＜次のページへつづく＞

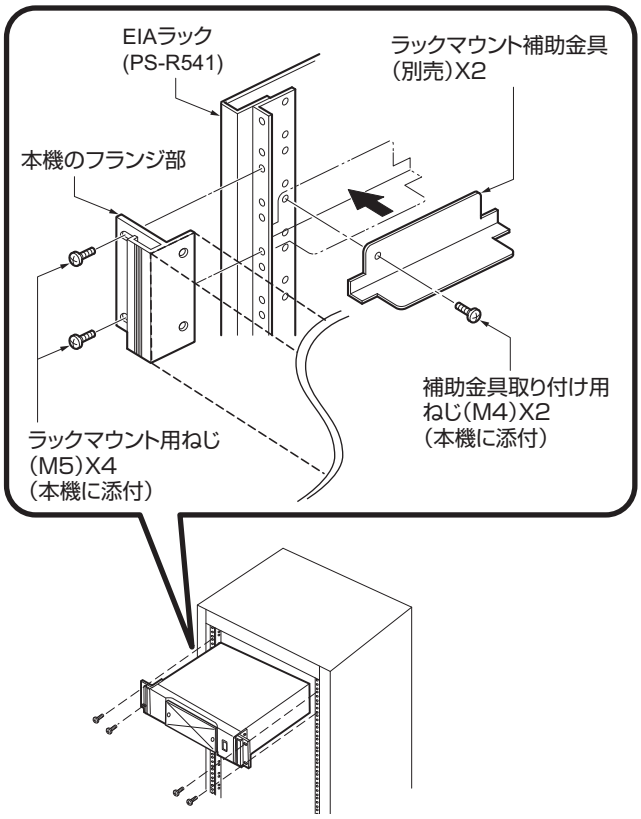
ラックへの組み込みについて（つづき）

ラックマウント補助金具を使用して取り付ける

ラックマウント補助金具（別売）を使用して、本機を EIA ラック（PS-R541 ／ PA-R641B ／ PA-R631B ／ PS-R30）に組み込む場合、ラックマウント補助金具（別売）を添付のスクリュー (M4) で取り付けてからラックへ組み込みます。

ご注意：

- ラックマウント補助金具（別売）の購入については、弊社営業担当または最寄りのご相談窓口にご相談ください。
  ラックマウント補助金具（品番：SS410739-012-H）



ご注意：

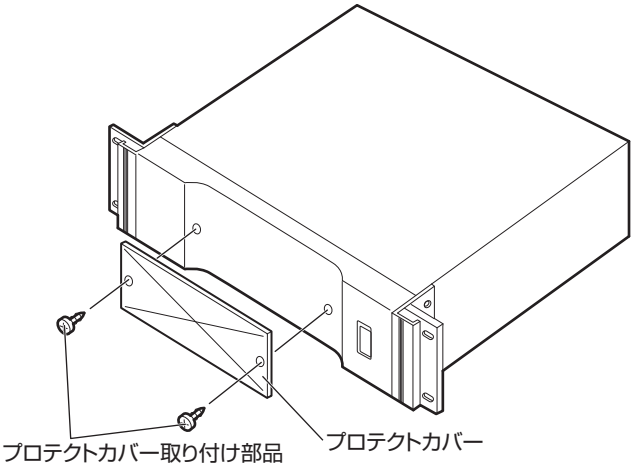
- 本機のフランジ部前側の手掛けは、ラックマウントされている本機を引き出すためのものです。本機の運搬など、他の目的で使用しないでください。

プロテクトカバーの取り付けについて

入力アッテネーターの誤操作を防ぎたいときにフロントパネルにプロテクトカバー（別売）を取り付けます。

ご注意：

- プロテクトカバー（別売）の購入については、弊社営業担当または最寄りのご相談窓口にご相談ください。
  プロテクトカバー（品番：LS30446-001A）
- プロテクトカバー取り付け部品は、本機に取り付けられている部品を使用してください。

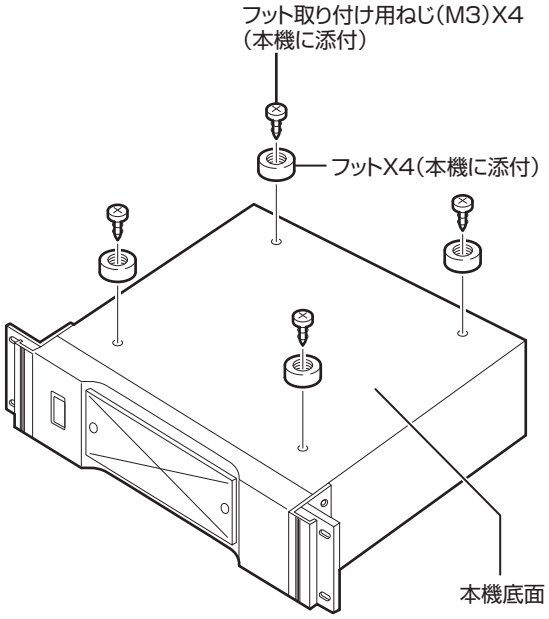


フットの取り付けについて

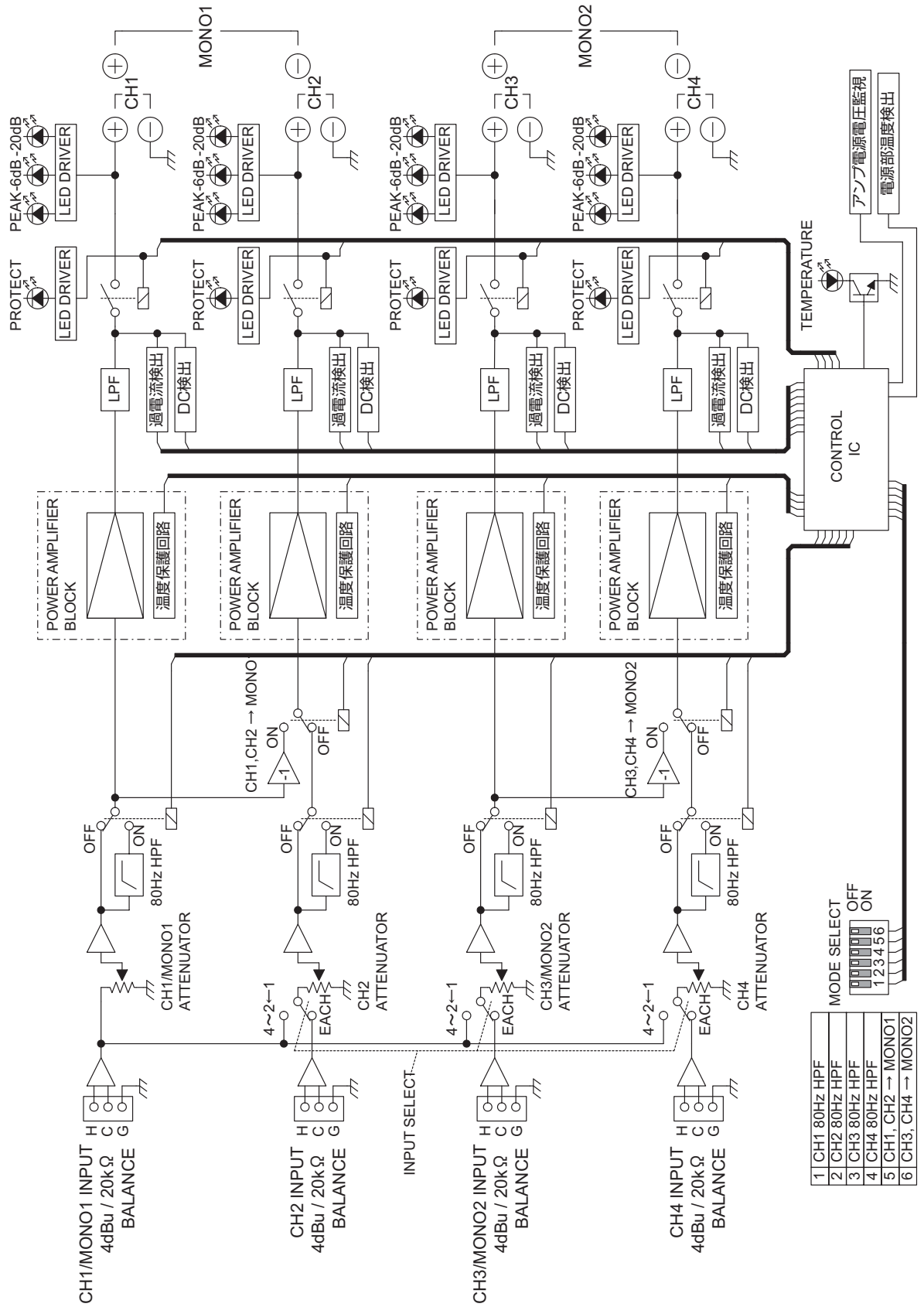
本機を直接カウンターや棚に置いて使用する場合、必ず底面にフット（添付）を取り付けてください。
フットはフット取り付け用ねじ（添付）で取り付けます。

ご注意：

- フット取り付け用ねじは、必ず添付のものを使用してください。（M3 × 16 mm）
- フットを使用しないと、事故や故障の原因となります。



ブロックダイヤグラム


MONO1
MONO2
CH1
CH2
CH3
CH4
PEAK-6dB -20dB
LED DRIVER
PROTECT
LPF
過電流検出
DC検出
POWER AMPLIFIER BLOCK
温度保護回路
TEMPERATURE
アンプ電源電圧監視
電源部温度検出
CONTROL IC
CH1,CH2 → MONO
CH3,CH4 → MONO2
ON
OFF
-1
80Hz HPF
CH1/MONO1 ATTENUATOR
CH2 ATTENUATOR
CH3/MONO2 ATTENUATOR
CH4 ATTENUATOR
4~2←1
EACH
INPUT SELECT
CH1/MONO1 INPUT
CH2 INPUT
CH3/MONO2 INPUT
CH4 INPUT
4dBu / 20kΩ
BALANCE
H
C
G
MODE SELECT
1 2 3 4 5 6
1 CH1 80Hz HPF
2 CH2 80Hz HPF
3 CH3 80Hz HPF
4 CH4 80Hz HPF
5 CH1, CH2 → MONO1
6 CH3, CH4 → MONO2

困ったときは

症状	原因	処置	参照ページ
電源が入らない	電源コードが抜けている。	電源コードを接続してください。	6 ページ
音が出ない [PROTECT] プロテクト表示ランプが点灯していない。 [DIGITAL] 電源表示ランプは点灯している。	ケーブルが抜けている。	電源を切った状態で、入力端子、スピーカー出力端子のケーブルを接続してください。	6 ページ
	入力アッテネーターが“∞”の位置（絞りきり）になっている。	フロントパネルの入力アッテネーターを操作してください。	5 ページ
	CH1 と CH2 をモノラル動作に切り換えたときに、CH2 側に入力信号を接続している。	CH1 と CH2 をモノラル動作させるときは、CH1/MONO1 側に入力信号を接続してください。	6 ページ 8 ページ
	CH3 と CH4 をモノラル動作に切り換えたときに、CH4 側に入力信号を接続している。	CH3 と CH4 をモノラル動作させるときは、CH3/MONO2 側に入力信号を接続してください。	6 ページ 8 ページ
音が出ない [PROTECT] プロテクト表示ランプが点灯したままになっている。	機器内部の温度が高くなっている。	電源スイッチを“OFF”にし、機器の温度が下がってから、電源を“ON”にしてください。本機の周囲に必要な隙間を確保しているかも確認してください。	−
	スピーカー端子の ⊕ と ⊖ の間が短絡（ショート）している。	電源スイッチを“OFF”にしてから、下記について確認してください。 ● リアパネルの設定スイッチの 5 番目と 6 番目の設定状態 ● スピーカー出力端子に接続されているスピーカーのインピーダンス	6 ページ
	接続したスピーカーのインピーダンスが低すぎる。		
音が出ない すべてのランプが消灯する	機器内部の温度が高くなっている。	電源スイッチを“OFF”にし、機器の温度が下がってから、電源を“ON”にしてください。本機の周囲に必要な隙間を確保しているかも確認してください。	5 ページ
音がひずむ [TEMPERATURE] 温度表示警告ランプが点灯していない。	音量が大きすぎる。	フロントパネルの入力アッテネーターで音量を下げてください。	5 ページ
	接続したスピーカーのインピーダンスが低い。	電源スイッチを“OFF”にしてから、下記について確認してください。 ● リアパネルの設定スイッチの 5 番目と 6 番目の設定状態 ● スピーカー出力端子に接続されているスピーカーのインピーダンス	6 ページ
	入力端子に接続した機器の音量が大きすぎる。	接続機器の出力音量レベルを下げてください。	−
音がひずむ [TEMPERATURE] 温度表示警告ランプが点灯したままになる。	機器内部の温度が高くなっている。	音量を下げてください。 また、下記についても確認してください。 ● 機器周囲の温度が高くないか ● 本機の周囲に必要な隙間を確保しているか	5 ページ
CH2、CH3/MONO2、CH4 に入力信号が出力されない。	入力チャンネルの切り換えスイッチが“4 ～ 2 ← 1”になっている。	電源を切った状態で、リアパネルの入力チャンネル切り換えスイッチを“EACH”側に切り換えてください。	6 ページ
低音が出ない。	ハイインピーダンストランスユニットを使用せずに、[MODE SELECT] 設定スイッチの 1 番～ 4 番が“ON”になっている。	電源を切った状態で、リアパネルの設定スイッチ 1 番～ 4 番を“OFF”にしてください。 **ご注意：** ● ハイインピーダンストランスユニットに接続している場合は、リアパネルの設定スイッチ 1 番～ 4 番を、必ず“ON”のままにしてください。	6 ページ 10 ページ

保証とアフターサービス

保証書の記載内容ご確認と保存について

この商品には保証書を別途添付しております。保証書はお買い上げ販売店でお渡ししますので所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

保証期間について

保証期間は、お買い上げ日より 1 年間です。保証書の記載内容により、お買い上げ販売店が修理いたします。その他詳細は保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

保証期間経過後の修理については、お買い上げ販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料で修理いたします。

サービス窓口

- 下記 URL をご覧ください。
  http://www3.jvckenwood.com/pro/service.html
- カスタマーサポートセンター（045-939-7320）

サービスについてのお問い合わせ先

修理・保守・設置工事については、お買い上げの販売店または最寄りのサービス窓口にご相談ください。

修理を依頼されるときは

お買い上げ販売店または最寄りのご相談窓口に次のことをお知らせください。

品名	：デジタルパワーアンプ
型名	：PS-A1504D(B)
お買い上げ日	：
故障の状況	：故障の状態をできるだけ具体的に
ご住所	：
お名前	：
電話番号	：

商品廃棄について

この商品を廃棄する場合は、法令や地域の条例に従って適切に処理してください。

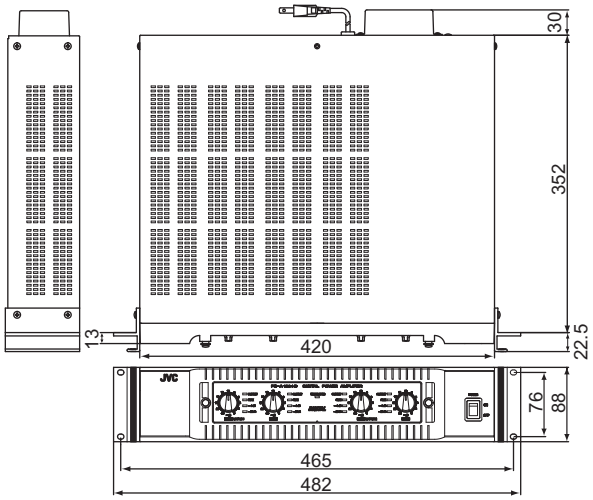
仕様

増幅方式	：D 級増幅方式
定格出力	：4 チャンネル 100 W x 4（1 kHz、8 Ω） 150 W x 4（1 kHz、4 Ω） 2チャンネル 300 W x 2（1 kHz、8 Ω）
全高調波歪率	：0.1 %以下 （定格出力− 7 dB 時、22 Hz ～ 22 kHz BPF ON）
周波数特性	：20 Hz ～ 20 kHz ± 2 dB （4チャンネル動作、8 Ω、1 W 出力時）
クロストーク	：− 70 dB 以下（IHF-A）
SN 比	：100 dB 以上（IHF-A 入力短絡）
入力感度	：+4 dB（0 dB=0.775 Vrms）
最大電圧利得	：27.2 dB（8 Ω）
入力インピーダンス	：20 kΩ（電子平衡）
電源	：AC 100 V、50 Hz / 60 Hz
消費電力	：148 W（電気用品安全法）
最大電流	：12 A（定格出力時）
質量	：7.3 kg
仕上げ	：フロントパネル：黒色 ABS 樹脂

■ 添付物・付属品

取扱説明書 1
安全上のご注意 1
保証書 1
コネクター端子台 4
ラックマウント用ねじ（M5） 4
補助金具取り付け用ねじ（M4） 2
フット 4
フット取り付け用ねじ（M3） 4

■ 外形寸法図（単位：mm）



※ 本機の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

PS-A1504D　デジタルパワーアンプ

JVCケンウッド
カスタマーサポートセンター

固定電話 0120–2727–87
携帯電話・PHS 0570-010-114
一部のIP電話など 045-450-8950
FAX 045-450-2308
〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12

ご相談窓口におけるお客様の個人情報は、お問合せへの対応、修理およびその確認に使用し、適切に管理を行い、お客様の同意なく個人情報を第三者に提供または開示することはありません。

ホームページ http://www3.jvckenwood.com/

株式会社 JVCケンウッド・公共産業システム
〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12

© 2016 JVCKENWOOD Public & Industrial Systems Corporation

B5A-1884-00